

ドミニク・ウィルキンソン教授 とのラウンドテーブル

2023年10月12日

16:20 - 18:40 (最大19:00)



立命館大学衣笠キャンパス創思館3階
(303・304号室) / Zoom

▶ 日本語での要約的な通訳あり

<https://ritsumeai-ac-jp.zoom.us/j/99556028492?pwd=Y1A1T1RZMEVvVEp4NDIJK2RLaEE4dz09>
ID: 995 5602 8492 パスコード 000000



座長 美馬達哉 (立命館大学大学院先端総合学術研究科)

第1部: "日本の終末期医療"

16:20 - 田中美穂 (日本医師会総合政策研究機構主任研究員・立命館大学大学院博士後期課程学生)

"The feeling of being a burden to others at the end of life: focusing on policy and social/cultural characteristics in Japan" 「終末期における他者への負担感: 日本の政策と社会・文化的特徴に着目して」

16:40 - ディスカッション

第2部: "苦しむ子どもの倫理"

17:10 - ウィルキンソン教授によるショートプレゼンテーション

◆参加者は、下記の対象論文に目を通しておいください。

Wilkinson, D. and Zayegh, A. (2020) Valuing life and evaluating suffering in infants with life-limiting illness.

「生命を脅かす病気を有する乳幼児における生命の価値と苦痛の評価」

Theoretical Medicine and Bioethics 41:179-196. (<https://doi.org/10.1007/s11017-020-09532-x>)

◆参考文献

Turnham, H. and Wilkinson, D. (2022) Chapter 24 Ethical Issues and Decision Making for Children: A European Perspective, in K. Wasson, M. Kuczewski (eds.), Thorny Issues in Clinical Ethics Consultation, Philosophy and Medicine 143. (https://doi.org/10.1007/978-3-030-91916-0_24)

Brick C, Kahane G, Wilkinson D, et al. (2020) Worth living or worth dying? The views of the general public about allowing disabled children to die. J Med Ethics 46:7-15. (<https://doi:10.1136/medethics-2019-105639>)

17:30 - ディスカッション

コメント 笹月桃子 (西南女学院大学保健福祉学部)

高橋花子 (同志社女子大学看護学部看護学科・立命館大学大学院博士後期課程学生)

18:30 - 閉会の辞 田坂さつき (立正大学文学部)

ウィルキンソン教授の略歴:

ドミニク・ウィルキンソン氏はオックスフォード大学の医療倫理学教授であり、オックスフォード上廣実践倫理センターの医療倫理学部長兼副所長である。オックスフォード大学ジョン・ラドクリフ病院新生児集中治療コンサルタント。

ジーザス・カレッジ・オックスフォード上級研究員。

会場や資料準備の都合上、現地で参加される方は10月6日(金)までにお申し込みください。

<https://forms.gle/uLFgcePfmqmqmRfhZ7>



謝辞: 本会議は、科学研究費補助金・学術変革(A)「尊厳学の確立」(2023-2027)の助成を受けて開催する。

主催: 学術変革領域A「尊厳学の確立」(領域代表者: 加藤泰史)

共催: 基盤B「生命操作の倫理—生と死の自己決定をめぐる」(研究代表者: 田坂さつき)

立命館大学先端総合学術研究科、立命館大学生存学研究所